

下街道

「下街道」は、中山道と名古屋城下を結ぶ庶民の道として、江戸時代から明治にかけて、多くの馬や荷物が行き交い、その中間となる高山宿は荷継場としてにぎわいました。

また、東へ向かう際は善光寺街道、西へ向かう際は、伊勢道・熱田道などと呼ばれ、信仰の道としての役割も果たしていた歴史があります。現在でも街道沿いには、歴史を感じさせる建造物などが多数残っています。今回はそんな下街道のロマンあふれる魅力をご紹介します。

問 産業振興課（内線234）



市内で観光ガイドやまちづくり活動を推進され、下街道に詳しいお二人に、その魅力を伺いました

下街道の歴史は非常に古く、そのはじまりは4〜5世紀頃であると言われています。下街道沿いにある熊野神社や中山神明神社などには、ヤマトタケル（日本武尊）に関連した伝説も残されており、古代ロマンを感じさせます。

江戸時代には庶民の道として多くの人々が往来したことにより、文化や情報の交わりが非常に盛んでした。明治13年には、天皇の巡幸もあり、これを期に下街道は大幅に整備が進みました。下街道の歴史を学ぶと、今日の土岐市がどのように発展してきたかを知ること

とができます。

ここでは語りつくせないほど、下街道の歴史にはまだまだ魅力がいっぱい。この続きは「ふるさと再発見講座」の中で詳しくお伝えしたいと思います。難しい話はちよっとという方にもなるべく分かりやすく説明します。また、ウォーキング好きの方にもぜひおすすめです。古く趣のある景色を堪能しながらの散策は格別ですよ。「ふるさと再発見講座」、ぜひ多くの皆さまの参加をお待ちしています。

Interview



高山城高山宿史跡保存会参事 後藤清さん(左)
土岐市観光ガイドの会会長 山内博文さん(右)

ふるさと再発見講座 全3回

参加無料

第1回

日時 11月12日(土) 午前10時～
場所 高山区民会館(土岐津町高山412-2)
内容 庶民の街道「下街道」の歴史と役割、高山宿周辺散策

今後の予定

※第2回目=11月26日(土)、3回目=12月10日(土)の詳細は、本紙11月15日号、12月1日号と合わせて案内するチラシでそれぞれお伝えします。

① 中山神明神社

主祭神は天照大神。天正11年(1583年)に再建の記録あり。境内には水神の碑もあり、藤棚が設けられている。神明峠は内津峠と並び下街道の難所のひとつであった。



② 明治天皇駐蹕碑

明治13年、第4回ご巡幸の際、神明坂にて、馬車から板御輿に乗り換えられた。ご巡幸は神明峠の道路改良のきっかけとなり、山県有朋書の碑が天皇巡幸の意義を讃えている。



③ 十王堂（十王尊）

土岐市指定文化財。江戸時代の閻魔大王など十体の十王像を祀る。お堂は平成17年に全面改築。創建時期は不明であるが、堂の裏手には供養塔などの古い石碑が多く残っている。



④ 熊野神社

主祭神は伊邪那美命。狛犬は2対並び1対は高価な鞍馬石だといわれる。境内に6世紀の市内最古の古墳が3基あったが、社と道路の建設のため消え、現在左側山手に1基の遺構が残る。



⑤ 高山御小休所碑

明治天皇が陶器造りの実演をご覧になった後、ご休憩された場所。街道には近郊から集まった多数の住民が、従者約3千人の威風堂々の行列を見送ったとされる。



⑥ 高山城跡

土岐市指定史跡。承久の乱(1221年)の頃、美濃源氏土岐氏の拠点を守るために砦が設けられたという。戦国の時代より関ヶ原合戦に至るまで、何度も高山城争奪戦が繰り返された。



⑦ 穴弘法

戦国時代の武田と織田の古戦場。元禄元年(1688年)に古城山慈光寺が開山されたがその後廃寺となった。明治末期に再興され弘法様が祀られた。石仏は104体。秋にはもみじのライトアップなども行われる。



⑧ 下肥田薬師堂境内

創建は元禄14年(1701年)とされ、薬師三尊座像と弘法大師座像が安置されている。境内には、下肥田地区の多くの石仏、石造物が集められている。

